

今後の取組の進め方

今後のスケジュールイメージ

令和6年9月26日
内閣官房行政改革推進本部事務局

令和6年

9月 レビューシート公表

9月26日 第4回EBPM推進委員会

- ・各府省における取組紹介（個別事業の改善例、行政事業レビュー推進チーム等の取組例）
- ・制度官庁における取組紹介（効果検証の参考事例や自己点検の在り方の説明）

11月 秋のレビュー

令和7年

年明け 第5回EBPM推進委員会

- ・次年度のEBPM取組方針の伝達など

2～3月 ワークショップ（府省横断又は個別府省）の実施（P）

- ・レビューシートの更なる品質改善の実践と結果の取りまとめ

<上記スケジュールを踏まえた必要な取組>

1. 報告された取組を参考として、EBPM実践の質の更なる向上
2. EBPM定着に向けた課題抽出と対応策の検討への協力
（ヒアリングの実施、ワークショップ（伴走支援）の継続等）
3. レビューシートシステムに入力する情報の正確性の向上

「点検・見直し」の誤解

やらされ感から
後ろ向きな対応をしたり
後回しにしたり
してしまう

「どうやり過ごすか」
「何とかここを乗り切ろう」
という発想から
防御的なコミュニケーション
を取ってしまう

事業の効果に○×をつける
あるいは
上手くいっていないから
「ダメ」と判定をする、
対決型のやりとり
になってしまう

いい事業になる、いい働き方につなげるための「点検・見直し」



「基礎的なEBPMの実践」の重要性は、政策判断の精度を向上させ、政策立案者が自らの政策立案(policy making)に活かすこと

- ・「Evidence-Based」が強調されがちだが、むしろ、**政策の立案・機動的な改善＝「Policy Making」を通じて社会課題を解決**することが肝であり、それを行政官としての当然の営みと意識して取り組むべき
- ・短期間で社会情勢が大きく変化する中で、一度政策を始めたら変えないことを良しとしてしまうと、もはやその政策効果を届けるべき人に効果的に届けることができない事態になってきた
- ・チェックするサイクルを早くしないと、結局は後処理の負担が大きくなり、行政にとっても国民にとってもマイナス

EBPMの点検・見直しを自分事にする

- ・レビューシート作成を通じた「基礎的なEBPM」の実践は、担当者が自らの頭で考える、自分が行っていることで何か変なことが起きていないかどうかを日々の業務の中で見ていくという、極めて泥臭い**政策過程や調整の話**であり、**政策立案者誰もが行う日常的な政策プロセスの一部**である
- ・「自分が担当している業務がどのような効果をあげているか、どうやったらよりよくできるか」という**行政官が本来持っている良心に従って最善策を検討**すべき

公開プロセスをクリエイティブな議論を行うトレーニングの場にする

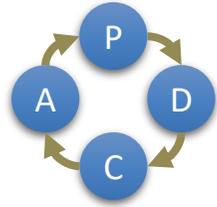
- ・事業が上手くいっていない場合には、どうやったらそれを改善できるかを議論する
- ・事業担当部局・推進チームと有識者の間で、**いかに課題を共有して一緒に改善策を考えていくか**という雰囲気作りが重要
- ・一定の負担はかかるが、真摯に取り組むことで事業の見直しを通じた**政策効果の一層の発揮**につながる
- ・事業改善のヒントを見いだす成功体験の積み重ねで、行政官としての**政策立案スキルを向上させる**

3 レビューシート作成による毎年度の点検の考え方（毎年度の点検にも、小さなPDCAの営みがある！）



【点検は基礎的なEBPM推進の要】

自己点検には、過去の振り返りとどまらない、政策効果をより高めるための準備となる小さなPDCAサイクルが含まれる。
（ダイナミックなEBPMの前提になるもの）



自己点検の中には、
・ロジックモデルや指標の見直しなど企画（P）に該当する営みのほか、
・データやエビデンスを収集する事業実施（D）の営み、
・データやエビデンスを踏まえた点検（C）の営み、
・点検結果を踏まえた改善策（A）の検討が含まれる。

点検（C）のメインイベントであるが、ダメ出しを受ける場とするのではなく、改善（A）に向けて「どうしたらいいの？」の具体的なアイデアをもらうための場とする。
そのためには、前向きな論点設定と、知恵をいただける有識者が必要。

ここで、改善（A）を具体的に書くためには、前段の①、②、③のプロセスでの議論の充実が不可欠となる。

